

国際協調における政策枠組み ～「女性政策」と「ジェンダー主流化」～

2020年10月21日
Gender Action Platform
大崎麻子

国際協調における政策枠組み ～「女性政策」と「ジェンダー主流化」～

「女性と女の子をコロナ対応の中核に据える」 (国連グテーレス事務総長)

1. 女性と女の子のニーズを踏まえた政策を策定し、施策を実行する (緊急的・救済的措置)
2. 女性と女の子に負の影響が集中する構造的要因を精査し、COVID-19からの復興を含む経済政策にジェンダー平等視点を主流化する
3. 上記の政策決定過程に女性・女の子 (含：団体) の参画を確保する



SDGs (持続可能な開発目標) と女性の人権をベースとするアプローチであり、政策的枠組み (含：政府、国際機関、NGO、民間セクター)

国際協調：「ジェンダー主流化」(1997年～)



1. 「人々」の中には「男性」「男の子」と「女性」「女の子」がいる
2. 男女には身体的な違いがある（生物学的性差）
3. 家庭内・コミュニティ・社会における、既存の男女間の「役割分業」「力関係」「行動規範」の違いにより、男性と女性は異なる立場・状況にある（ジェンダー/社会的性差）

⇒そこで、

- ✓ 男女別のデータを取り、分析すること
- ✓ 男性と女性の異なるニーズに対応すること（女性政策）
- ✓ 男女間の格差の根源的な要因に働きかけ、ジェンダー平等の実現に向けて努力すること（経済社会政策におけるジェンダー平等の実現）

誰一人、取り残さない
(インクルージョン)



根拠に基づいた政策・事業策定
(エビデンスベース、効率性)

国際協調における政策枠組み

～3つの領域における主な政策的論点～

健康 (Health)

- ✓ 保健医療セクターの職種・職務・職域における男女の違いとその影響
- ✓ 健康（特にリプロダクティブヘルス、メンタルヘルス）

経済 (Economy)

- ✓ 生計手段（雇用、事業、収入、貯金）
- ✓ ケア経済（無償ケア労働、有償ケア労働）

社会 (Social)

- ✓ 暴力（家庭内、公共空間/交通機関、学校、職場）
- ✓ 社会資源へのアクセス

国際協調における政策枠組み

～緊急的施策と中長期的施策の例～

緊急的・救済的施策

1. 社会保障・社会的保護
2. 経済的支援
3. 無償ケア労働
4. 暴力

構造変革を促す施策

- 賃金格差の解消（雇用形態・職種/職務/職域分離等）
- 税と社会保障制度の見直し
- キャリア教育・STEM/デジタル教育の拡充
- 「ガールズ」（思春期・若年女性）の支援/保護とエンパワーメントに資する施策
- 性的同意・包括的性教育
- 広告における「有害なジェンダーステレオタイプ」の解消（民間企業）

SDGsの理念をベースとした対策

～「誰一人取り残さない」～

「今後、コロナからの「よりよい復興」を遂げ、SDGsが達成された、しなやかで強靱な、環境と成長の好循環のある社会を実現していく必要があります。未来を担う子ども・若者の教育や女性に大きな影響が出ています。」（第75回国連総会での菅総理の一般討論演説より）

1. 母子世帯（母親、子ども） → 「シングルマザー調査プロジェクト」（日本）、ユニセフ報告書「レポートカード 16」（国際比較）
2. 女の子・若年女性 → 「10代20代女性における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響についてのアンケート調査」（BONDプロジェクト）（添付資料をご参照ください）、「新型コロナウイルスの影響に関する女の子と若い女性の声アンケート調査」（プラン・インターナショナル・ジャパン）
3. 単身の女性の年金受給者 → ??????

緊急的・救済的施策
（女性のニーズに特化）



構造変革を促す施策
（経済政策等におけるジェンダー主流化）

調査・分析・参画 → 政策・施策